

平成 30 年度
岩手県国際リニアコライダー推進協議会
事業報告書

（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

(1) 調査・研究事業

ア. イノベーション・経済波及効果調査の実施

イ. 東北 ILC 準備室による地域の受入体制の準備に係る調査活動に参画

ウ. ILC に関連する加速器関連産業への理解と参入機会の創出

エ. その他

(2) 国内・外への ILC 実現にむけた活動

ア. 国内 PR の強化

イ. 海外への情報発信強化

ウ. 普及啓発活動

(3) 要望・提言活動

(4) 組織強化活動

ア. 会員増強

イ. 産・学・官・関係機関との連携

(5) 広報活動

(6) 諸会議等

(7) 会員加入状況

(1) 調査・研究事業

ア. イノベーション・経済波及効果調査の実施

■イノベーション・経済波及効果調査委員会

設立目的：ILC 実現による多面的な経済波及効果の算定に関する検討を行い、必要な意見及び助言を行うことを目的に平成 27 年 2 月に組織。

《イノベーション・経済波及効果調査委員会構成》平成 30 年 7 月 29 日現在

委員長 鈴木 厚 人（岩手県立大学 学長）
副委員長 齋 藤 雅 博（岩手県国際リニアコライダー推進協議会 副会長）
委員 山 下 了（東京大学素粒子物理国際研究センター 特任教授）
委員 吉 岡 正 和（東北大学・岩手大学 客員教授）
委員 成 田 晋 也（岩手大学理工学部 教授）
委員 佐々木 淳（岩手県理事兼政策地域部科学 ILC 推進室 室長）
委員 橋 本 良 隆（岩手県商工会議所連合会 専務理事）
委員 廣 田 淳（盛岡商工会議所 参与）

①記者発表

日 時 平成 30 年 7 月 30 日（月）9:30～

場 所 盛岡商工会議所 2 階特別会議室

会見者 谷 村 邦 久 岩手県 ILC 推進協議会会長

鈴木 厚 人 イノベーション・経済波及効果調査委員会 委員長

オブザーバー 大 平 尚 岩手県企画理事

佐々木 淳 岩手県理事兼科学 ILC 推進室 室長

『国際リニアコライダー日本誘致がもたらすイノベーション・経済波及効果調査報告書』[概要版]

- ILC の特長と本報告書の目的
- プロジェクトの波及効果として調査した項目
- 項目 1～3 これまでの公的な調査結果
- 項目 4 基盤技術（加速器関連技術）の発展・利用による産業の波及効果
 - 国内における 20 年間の経済波及効果（最終需要額） 3 兆 100 億円
 - 国内における生産誘発額 5 兆 7,200 億円
- 項目 5 世界とつながる新たな地方創生効果
 - 我が国の地方に国際科学技術イノベーション拠点を形成
 - ア. ILC を契機とした地域産業への経済波及効果の可能性
 - イ. 民間投資
 - ウ.ベンチャー企業等による地方創生
 - エ. 地方創生に資する経済波及効果の可能性（Green ILC）
 - オ. 教育
- 項目 6 更なる変革：社会課題解決等の可能性

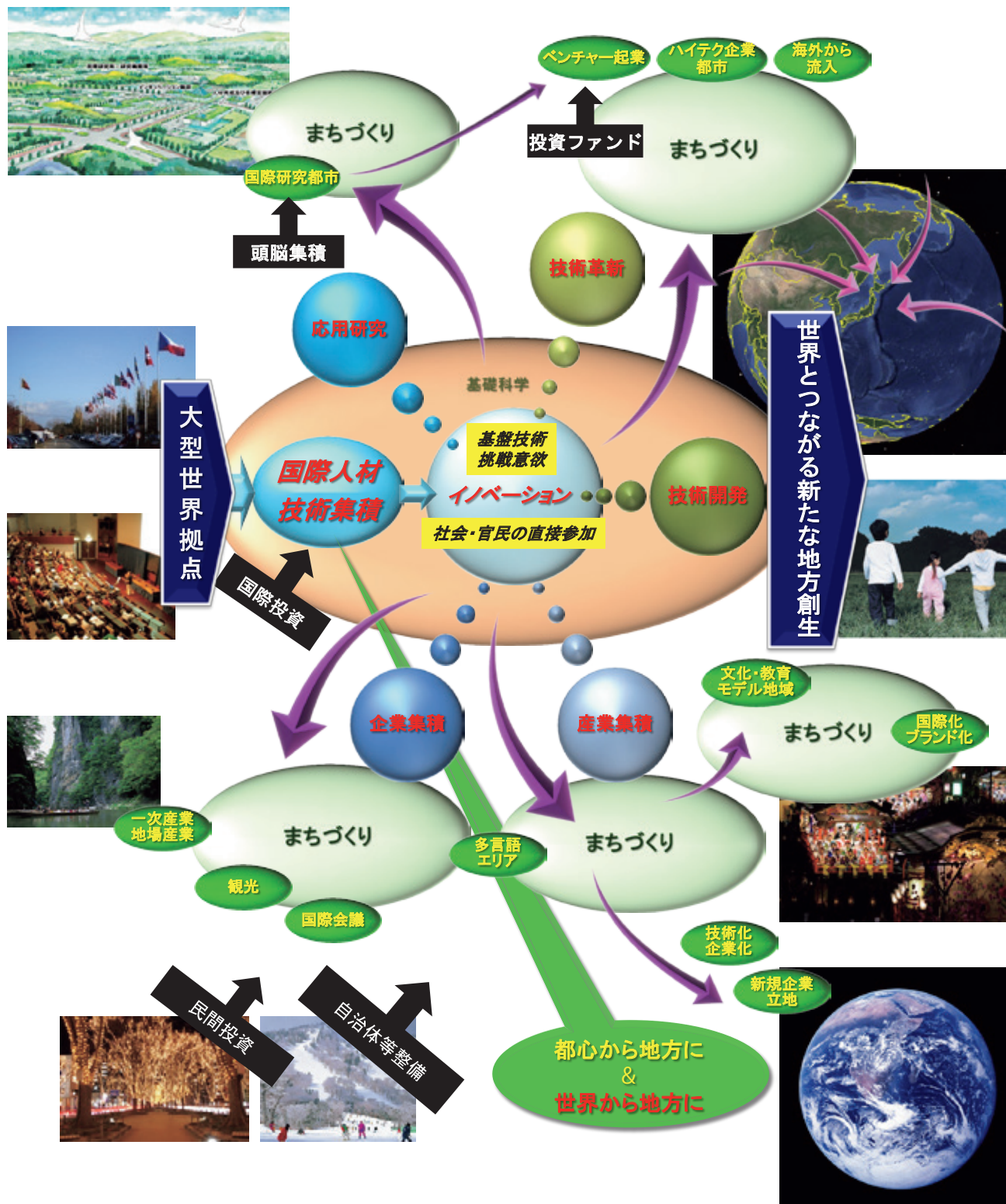
② 報告書[概要版]の送付

平成 30 年 10 月、協議会全会員あて送付・周知を行った。

項目5 世界とつながる新たな地方創生効果

地方創生のイメージ図

国際拠点を基盤に地域主体の立案・挑戦から生まれる
「世界とつながる新たな地方創生」



イ. 東北 ILC 準備室による地域の受入体制の準備に係る調査活動等に参画

①東北 ILC 準備室全体会議、戦略会議、広報部会等

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日まで 11 回の開催。

ウ. ILC に関連する加速器関連産業への理解と参入機会の創出

■岩手県、いわて加速器関連産業研究会、東北 ILC 準備室と連携したセミナー

①第 1 回 ILC 技術セミナー（後援）

平成 30 年 5 月 23 日（木）14:45～／於：岩手県工業技術センター

主催：いわて加速器関連産業研究会・東北 ILC 準備室（以下略）

内容：・超伝導空洞のコストダウン D&R

道前 武 氏（高エネルギー加速器研究機構 博士研究員）

・岩手の道をつなぐ！盛岡宮古間最大の難所区界峠の新しいトンネルと身近な土木技術

西川 幸一 氏（鹿島・東急 JV 工事事務所 所長）

②第 2 回 ILC 技術セミナー（後援）

平成 30 年 7 月 11 日（水）13:30～／於：ブランニュー北上コンベンションホール

内容：・ILC イン트로ダクション

吉岡 正和 氏（高エネルギー加速器研究機構 名誉教授）

・超伝導加速空洞の最先端技術

早野 仁司 氏（高エネルギー加速器研究機構 教授）

・小型加速器とレーザーの融合技術

福田 将史 氏（高エネルギー加速器研究機構 研究機関講師）

③第 3 回 ILC 技術セミナー（後援）

平成 30 年 9 月 27 日（木）14:00～／於：大船渡市民文化会館リアスホール

内容：・ILC イン트로ダクション

成田 晋也 氏（岩手大学理工学部 教授）

・衝突点検出器 ILD の概要とコンポーネント運搬、アセンブリーの詳細

杉本 康博 氏（高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 講師）

・加速器空洞高性能化のための計測機器

岩下 芳久 氏（京都大学 化学研究所 先端ビームナノ科学センター 准教授）

④第 4 回 ILC 技術セミナー（後援）

平成 30 年 11 月 22 日（火）14:30～／於：一関工業高等専門学校

内容：・ILC イン트로ダクション

佐貫 智行 氏（東北大学大学院理学研究科 准教授）

・ILC クライオモジュールのアッセンブリー

山本 康史 氏（高エネルギー加速器研究機構 准教授）

・ILC における架台の役割

早野 仁司 氏（高エネルギー加速器研究機構 教授）

・ILC のためのムーバー開発

阿部 優 氏（一関工業高等専門学校 専攻科）

⑤グリーン ILC セミナー

平成 31 年 2 月 12 日（火）14：30～17：20／於：岩手県産業会館（サンビル）7 階大ホール

主催：岩手県

報告：東北 ILC 地域計画調査結果（デンマークにおける熱供給事業等）

飛島建設(株)土木事業本部リニューアル統括部

講演：・グリーン ILC の概要

吉岡 正和 氏（高エネルギー加速器研究機構 名誉教授）

・グリーン ILC の基本構想

(株)NTT ファシリティーズ ソリューションビジネス部

・ILC 関連施設の木造化と地域経済への波及効果

(株)シェルター

話題提供：岩手県農林水産部、アジア航測(株)、東日本機電開発(株)、久慈バイオマスエネルギー(株)

⑥第 5 回 ILC 技術セミナー（後援）

平成 31 年 2 月 14 日（木）14：30～17：00／於：岩手大学理工学部内 一祐会館

内容・ILC トンネルと許容地盤振動

早野 仁司 氏（高エネルギー加速器研究機構 教授）

・花崗岩中の発破振動・交通振動伝達特性

小林 真人 氏（飛島建設(株) 技術研究所）

・北上山地花崗岩体における微振動測定

井上 竜太 氏（(株)竹中工務店 技術研究所）

・北上花崗岩体の地形・地質

佐貫 智行 氏（東北大学大学院理学研究科 准教授）

・梁川トンネル掘削の設計と実際

兼松 亮 氏（飛島建設(株)土木事業部）

⑦合同技術展 in K E K（後援・支援）

平成 31 年 2 月 18 日（月）～19 日（火）／於：高エネルギー加速器研究機構

主催：（公財）いわて産業振興センター（いわて加速器関連産業研究会）

内容：いわて加速関連産業研究会とつくばものづくりオーケストラとの合同展示会

岩手県内企業 10 社、つくば企業 11 社、東経連関係企業 5 社

エ. その他

①文部科学省有識者会議等の情報収集

・有識者会議

第 10 回 平成 30 年 6 月 19 日（火）／於：文部科学省会議室

第 11 回 平成 30 年 7 月 4 日（水）／於：文部科学省会議室

・素粒子物理作業部会

第 4 回 平成 30 年 4 月 13 日（金）／於：文部科学省会議室

第 5 回 平成 30 年 5 月 16 日（水）／於：文部科学省会議室

②日本学術会議の情報収集

・国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会

第1回 平成30年8月10日（金）～第9回 平成30年10月31日（水） 9回開催
於：日本学術会議 会議室

- ・国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会 技術検証分科会
第1回 平成30年8月10日（金）～第9回 平成30年10月31日（水） 9回開催
於：日本学術会議 会議室

※平成30年9月28日付けで、日本学術会議 国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会 委員長 家 泰弘宛てに谷村会長名で意見書を提出。（再掲）10月1日（月）開催の第6回検討委員会に参考資料として提出された。同委員会には、鈴木学長をはじめとする5人の研究者から国際リニアコライダー計画に関する補足情報、自由民主党 ILC 誘致実現連絡協議会、リニアコライダー国際研究所推進議員連盟の連名で河村会長、一関市議会議員5人の連名による意見書が提出された。

（２）国内・外への ILC 実現にむけた活動

ア. 国内PRの強化

①「ILC サポーターズ」の発足と活動支援

世界的な映画監督・押井守氏の呼びかけによって映画業界・出版業界を中心に広まり、有志によって ILC の誘致実現をするための応援組織『ILC サポーターズ』が発足した。

- ・記者発表

日 時 平成30年4月16日（月）14：00～16：00

場 所 東京・渋谷ヒカリエ8

- ・活動報告会

日 時 平成30年6月7日（木）15：00～17：00

場 所 東京・渋谷 DAIA

内 容 プレビュー・アクセス数 約20,000回。

一般サポーター参加者：16,047人。

#（ハッシュタグ）ILC サポーターズ：4,483投稿。

当協議会では、岩手県や関係自治体、団体とともに ILC サポーターズへの登録を呼びかけ、全国の登録・署名活動数は、平成31年3月末で約410,000人の登録があった。

②ILC100人委員会の発足

ILC 計画の意義を広く発信し、日本における建設実現を応援することを目的に、財界人や文化人他128名の有志による「ILC100人委員会」が発足した。発起人代表は、増田 寛也氏（元岩手県知事）。

- ・発足記念式典 平成30年6月29日（金）13：00～14：20

会 場 東京 国際文化会館

来 賓 鈴木議連副会長、塩谷幹事長ほか

- ・記念講演 「ILC 計画の概要と現状」

講 師：鈴木 厚人 氏（岩手県立大学 学長）

③ ILC 推進国際シンポジウム開催支援

「ノーベル賞受賞者に聞く ILC が開く科学の未来」と題する ILC 推進国際シンポジウムが東京で開催され、ILC 関係団体、岩手県とともに開催を支援した。シンポジウムで両氏は、ILC の科学的意義や必要性を強調。ILC 建設実現に向けて日本政府が早期に前向きな態度をとるよう要望。パネル討論や日本人受賞者によるメッセージ披露もあり、ILC がもたらす効果に理解を深めた。

概要 期 日 平成 30 年 8 月 5 日（日）14：00～17：00

会 場 お茶の水女子大学 微音堂

参加者 約 880 名（一般、小・中・高校・大学生）

達増知事、藤尾盛岡市副市長、小沢奥州市長、戸田大船渡市長、熊谷大船渡市議
議会議長他

谷村会長、齋藤副会長、橋本専務理事、廣田理事

主 催 ILC 推進プロジェクト（大学、研究機関等で構成）

登壇者 シェルドン・グラショウ博士（1979 年 ノーベル物理学賞）

「私たちは今 ILC を必要としている」

バリー・バリッシュ博士（2017 年 ノーベル物理学賞）

「ILC, 世界で最も重要な素粒子プロジェクト」

ビデオメッセージ 小柴 昌俊博士（2002 年 ノーベル物理学賞）

大隅 良典博士（2016 年 ノーベル生理学・医学賞）

総司会 高柳 雄一多摩六都科学館 館長

両氏は、6 日は TV 等の取材、7 日は外国人記者クラブにおいて記者会見を行った。

また、松山 政司 内閣府特命担当大臣に日本での ILC 建設を推奨する親書を渡し、世界中の素粒子物理学者たちが日本誘致を期待していることを伝えた。

④ 「ニコニコ超会議」岩手県ブース内での ILC 関連 PR

平成 30 年 4 月 28 日（土）～29 日（日）／於：幕張メッセ（千葉県）

主催：ニコニコ超会議 実行委員会／来場者数 15 万人（延べ）

内容 会場（岩手県ブース）での ILC 広報活動を実施。

- ・クライオモジュール特大ポスター展示
- ・ ILC サポートーズの紹介・拡散

⑤ 「VACUUM2018 真空展」特別展示 国際リニアコライダー計画展

平成 30 年 9 月 5 日（水）～7 日（金）／於：パシフィコ横浜（神奈川県）

主催：日本真空工業会、（一社）日本真空学会／来場者数：14,660 名（延べ）

内容：岩手県・関係自治体、関連機関と連携して実施。

クライオモジュール実寸大ポスターの展示や ILC ガイドラインシリーズの無料頒布等とともに、会場内展示ホールで行われたハッピーアワーにおいて北上サイト周辺自治体の PR を行った。

講演会：（参加者約 70 名）

「ILC が拓く新技術とイノベーション」

講 師 鈴木 厚人（岩手県立大学 学長）



⑥「サイエンス × ハローキティ・プロジェクト」との連携

AAA と連携し、ILC を幅広く知って頂くため「サイエンス×ハローキティ」プロジェクトを支援。

当協議会会員事業所にて販売を行っているほか、ILC 関連講演会、シンポジウム、イベント等の会場にて販売を行った。



イ. 海外への情報発信強化

①フランス国民議会ベシュト議員（アルザス欧州日本学研究所所長）来県に伴う対応

○昼食懇談会

日 時 平成 30 年 5 月 16 日（水）12：15～

場 所 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング「対い鶴」

参加者 達増知事、千葉副知事、谷村会長、岩渕学長、鈴木学長ほか

・1 月の超党派議連等によるミッションの際の協力へのお礼と今後の ILC 実現に向けて、受け入れ態勢の整備等地元の熱意を伝え、情報交換を行った。

ベシュト議員は、県内企業や中尊寺を視察。

○夕食懇談会

日 時 平成 30 年 5 月 16 日（水）17：30～

場 所 一関市「世嬉の一」

参加者 達増知事、谷村会長、齋藤副会長、佐藤理事（一関会頭）、高橋東北 ILC 推進協議会共同代表ほか



②ドイツ連邦議員カウフマン議員、DESY ムニッヒ所長、Saclay ティトフ博士来県に伴う対応

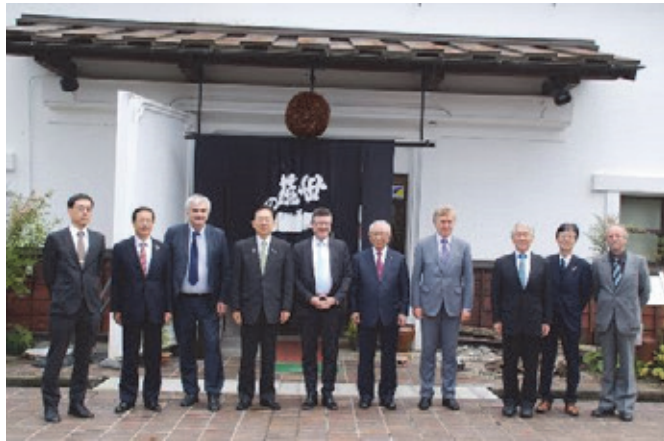
○昼食懇談会

日 時 平成 30 年 10 月 30 日（火）11：50～13：00

場 所 一関市「世嬉の一」

参加者 達増知事、谷村会長、佐藤理事（一関会頭）、鈴木学長、高橋東北 ILC 推進協議会共同代表、川越九大教授ほか

- ・1月の超党派議連等によるミッションの際の協力へのお礼と今後の ILC 実現に向けて、受け入れ態勢の整備等地元の熱意を伝え、情報交換を行った。
- カウフマン議員一行は、昼食懇談後、大原市民センターで ILC 関連の資料を見学、ILC 建設候補地、世界遺産・平泉 中尊寺を視察。



世嬉の一にて

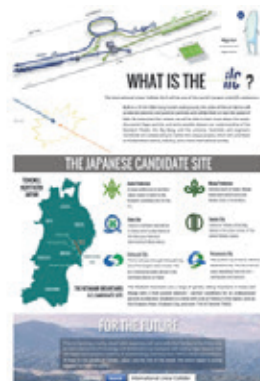


大原市民センターでの懇談

③ ILC 英語版広報誌「THE KITAKAMI TIMES」の発刊（当協議会 WEB 内）

海外の研究者等へ ILC の候補地である北上サイトや ILC 実現に向けた地域の取組等を英語版の広報紙としてウェブ上に掲載し、北上サイトに対する理解や機運醸成につなげている。

（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日まで、延べ 35 刊発刊）



ウ. 普及啓発活動 — ①公開講演会等

① ILC 公開講演会 （約 250 名）

- ・日本学術会議が文部科学省に「ILC 計画の見直し案に関する所見」を提出し、いよいよ正念場を迎え、地元における一層に理解増進にむけ開催。

平成 31 年 2 月 6 日（水）14：00～16：30/於：ホテルメトロポリタン盛岡 NW

第1部

「地域のイノベーションにつながる ILC」
～既に始まっている ILC のスピノフ～

講師：高エネルギー加速器研究機構
名誉教授 吉岡 正和 氏



第2部

「ILC をめぐる最新の状況等」

講師：岩手県立大学 学長 鈴木 厚人 氏



②ILC 公開講演会 （約 400 名、主催：岩手県、盛岡市、一関市、奥州市、県推進協）

・ILC 実現に大きくつながる日本政府による関心表明が発表され、実現にむけ着実に前進しており、建設候補地として一層の理解増進にむけ開催。

ILC 講演会～政府の関心表明を受けて～

平成 31 年 3 月 27 日（水）13：00～17：15/於：盛岡グランドホテル

＜講演 1＞

「国際会議を経て今後の ILC 計画の推進について」

講師：早稲田大学 教授 駒宮 幸男 氏

＜講演 2＞

「＜島耕作＞取材による漫画制作」

講師：会長島耕作 作者 弘兼 憲史 氏

＜講演 3＞

「ILC 計画における KEK の果たす役割について」

講師：高エネルギー加速器研究機構 理事 岡田 安弘 氏



駒宮氏



弘兼氏



岡田氏

ウ. 普及啓発活動 - ②学生向け講演会

①ドイツ マインツ大学 齋藤武彦 教授による科学特別授業に対する支援

平成 30 年 12 月 2 日（日）～12 月 7 日（金）

- ・盛岡市、久慈市、釜石市、岩泉町、大槌町、大船渡市、奥州市
- ・小・中・高校等 14 講座

- ・一般社団法人SAVE IWATEを通じて、事業実施を支援。

ウ. 普及啓発活動 - ③その他（後援・協力等）

①岩手 ILC 連携室「オープンラボ」の開設

オープンラボは、ILC 関連の情報を集約し、ILC の中核部品であるクライオモジュールの実機を展示しているなど、ILC への参入を目指すものづくり事業者や興味をもつ児童生徒など、誰もが学習・研究ができる開かれた施設として開設。

・開所式

期 日 平成 30 年 4 月 18 日（水）

場 所 岩手県先端科学技術センター内

見学者 100 団体 1,687 名（3 月 31 日時点）



②第 13 回岩手大学加速器科学連続セミナー

平成 30 年 4 月 27 日（金）13:30～17:00／於：岩手大学復興記念銀河ホール

主催：岩手大学

講演：「蓄熱材開発の最近の動向」

講師：鈴木 正哉 氏（産業技術総合研究所 地圏化学グループ長）

講演：「グリーン ILC」

講師：吉岡 正和 氏（高エネルギー加速器研究機構 名誉教授）

講演：「大型木造構造物建築の概要」～ILC 実験施設の木造化～

講師：安達 弘幸 氏（株シェルター 取締役）

③一関市 ILC セミナー「ILC 近況報告会」（後援）

平成 30 年 6 月 21 日（木）14:00～17:15／於：ペリーノ一関

主催：一関市

講演：「ILC 誘致へのカウントダウン」

講師：鈴木 厚人 氏（岩手県立大学 学長）

講演：「ILC を見据えた地域の役割について」

講師：佐々木 淳 氏（岩手県理事兼科学 ILC 推進室 室長）

講演：「東北地方の産業界の可能性を探る」

講師：吉岡 正和 氏（高エネルギー加速器研究機構 名誉教授）

④奥州市「ILC 講演会」

平成 30 年 7 月 6 日（金）15:00～16:30／於：奥州市文化会館（Z ホール）

主催：（一社）国際経済政策調査会、いわて ILC 加速器科学推進会議

講演：「誘致の現状と ILC が目指すもの」

講師：鈴木 厚人 氏（岩手県立大学 学長）

⑤大船渡市「ILC セミナー」

平成 30 年 7 月 12 日（木）13:30～15:30／於：大船渡市民文化会館大ホール

主催：気仙地区商工団体連絡会

講演：「ILC 計画の概要と最近の動向」

講師：鈴木 厚人 氏(岩手県立大学 学長)

講演：「ILC とまちづくり・産業振興」

講師：大平 尚 氏(岩手県企画理事)

⑥いわてサイエンスシンポジウム 2018

平成 30 年 7 月 16 日（月/祝）10：00～16：00／於：いわて県民情報交流センター アイーナ

主催：いわてサイエンスシンポジウム実行委員会

内容：県 ILC 科学推進室とともに ILC の PR ブースの支援

ジオラマ、抽選機、ILC 普及啓発うちわ（1,000 枚）

スタンプラリーの抽選、ILC リーフ・マンガによる普及啓発

ILC サポートーズの募集

⑦みんなで学ぼう！ILC～国際リニアコライダー～（イオンモール盛岡南等と共催）

平成 30 年 7 月 28 日（土）～29 日（日）／於：イオンモール盛岡南

「専門家の先生から楽しく『ILC』を学ぼう」

講師 東北大学大学院准教授 佐貫 智行 氏

「もっと身近に『理系』に親しもう！！」

講師：岩手大学理工学部准教授 山口 明 氏、工学ガールズ

内容：ソーラーカーを制作しよう！！液体窒素で遊ぼう等

「ILC を VR（バーチャルリアリティ）で体験しよう！」

講師：岩手県立大学（製作）

内容：ILC-VR で岩手県の地形や ILC、地層などをいろいろな角度から覗く体験や素粒子を探すゲーム、ILC について学べる「パネル展」、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の展示等を開催。また、来場者には ILC うちわをプレゼント。

⑧全国地ビールフェスティバル in 一関 ILC 特別展

平成 30 年 8 月 25 日（土）～26 日（日）／於：一関文化センター広場ほか

主催：一関市

・ ILC 特別展（パネルやジオラマの展示）

・ ILC サポートーズによる PR

・ ILC 関連グッズ（「サイエンス×キティ」や「素粒子男子」）の販売。

⑨ILC を生かそう！南岩手インバウンド対策セミナー

平成 30 年 10 月 4 日（木）14:00～16:30／於：プラザイン水沢

主催：岩手県南広域振興局

講演：「ILC 実現にむけて」

講師：岩手県科学 ILC 推進室

講演：「外国人観光客にへのおもてなしマナーについて」

講師：代田 眞知子 氏 元日本航空インターナショナル国際線スーパーバイザー

⑩岩手県工業技術センター公開デー「ILC 展示紹介コーナー」への協力

平成 30 年 10 月 6 日（土）／於：岩手県工業技術センター

内容：ILC パンフレットの配布や ILC-VR の体験、「サイエンス×ハローキティ」の販売。

⑪いわてサイエンスシンポジウム 2018in 久慈

平成 30 年 10 月 14 日（日）10：00～15：00／於：久慈市文化会館アンバーホール

主催：いわてサイエンスシンポジウム実行委委員会

内容：県 ILC 科学推進室とともに ILC の PR ブースの支援

ILC-VR による体験コーナーの他、ILC リーフ・マンガによる普及啓発

ILC サポーターズの募集

⑫東北 ILC セミナー（東北 ILC 推進協議会と共催）

平成 31 年 2 月 19 日（火）／於：ハーネス仙台

内容：・ILC の最新動向

鈴木 厚人氏（東北 ILC 準備室 室長）

・ILC 誘致と東北企業のイノベーションを考える

吉岡 正和 氏（東経連ビジネスセンターコーディネーター）

・メッセージ

山本 明 氏（CERN 客員教授）

⑬各種刊行物等への寄稿等

・「岩手経済研究」5 月号

・盛岡タイムス ILC 特集寄稿（2018. 6. 30 発刊）

・IBC ラジオ「ワイドステーション・世界とつながる ILC」出演（2018. 8. 7 放送）

・国際ロータリークラブ東北ガバナーズ機関紙 2018. 10 月号

・東北経済連合会機関紙「談天」11 月号

・IBC テレビ特別番組「世界とつながる ILC」インタビュー出演（2018. 9. 29 放送）

・「潮」2019 年 1 月号

・「岩手経済研究」2019 年 2 月号

・IBC ラジオ「ワイドステーション・世界とつながる ILC」出演（2019. 2. 5 放送）

・岩手日報 ILC 企画特集寄稿（2019. 2. 6 発刊）

・日刊建設産業新聞東北支社寄稿（2019. 2. 28 発刊）

・岩手日報新聞広告（2019. 3. 26 発刊）

・岩手日日新聞特集号寄稿（2019. 3. 30 発刊）

(3) 要望・提言活動

①第2回 ILC 実現にむけた情報交換会

平成 30 年 5 月 1 日（火）／於：岩手県立大学アイーナキャンパス

出席者：鈴木厚人県立大学学長、山下東京大学特任教授、谷村会長、齋藤副会長、橋本専務理事、大平企画理事、佐々木理事ほか

- ・ ILC の国内外の状況について、仏：ベシュト議員来県に伴う対応について、イノベーション・経済波及効果調査、東北 ILC マスタープラン、今後の活動についてなど情報を共有。

②第3回岩手 ILC 懇談会（政産官学）

平成 30 年 5 月 19 日（土）／於：サンセール盛岡

出席者：鈴木俊一衆議院議員、達増知事、鈴木厚人県立大学学長、谷村会長、橋本専務理事、大平企画理事、佐々木理事ほか

- ・ 政府、議連の最近の状況等について、仏：ベシュト議員との懇談会について、東北 ILC 準備室の活動状況について、イノベーション・経済波及効果調査、東北 ILC マスタープラン、今後の活動についてなど情報を共有。

③リニアコライダー建設推進議員連盟 河村 建夫会長との面談

平成 30 年 6 月 6 日（水）／於：衆議院第 2 議員会館

面談者：谷村会長、鈴木厚人県立大学学長ほか

- ・ 国際リニアコライダー日本誘致がもたらすイノベーション・経済波及効果調査（概要版）の状況報告と今後の活動について意見交換。

④東北 ILC 推進協議会、北海道東北知事会、東北市長会要望

平成 30 年 6 月 8 日（金）／於：衆議院議員会館、自由民主党本部、総理官邸、復興庁

要望者：大野東北大総長、高橋東北 ILC 推進協議会共同代表、達増知事、勝部一関市長、鈴木厚人県立大学学長、谷村会長ほか

要望先：リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟 河村会長、鈴木副会長、塩谷幹事長ほか幹事会メンバー

自由民主党 二階 俊博幹事長、内閣府 菅 偉義官房長官、復興庁 関事務次官

⑤第4回岩手 ILC 懇談会（政産官学）

平成 30 年 7 月 29 日（日）／於：ホテルメトロポリタン盛岡

出席者：鈴木俊一衆議院議員、達増知事、鈴木厚人県立大学学長、谷村会長、橋本専務理事、大平企画理事、佐々木理事ほか

- ・ 政府、議連の最近の状況等について、政産官学要望について、イノベーション・経済波及効果調査報告について、今後の活動についてなど情報を共有。

⑥政産官学連携要望

平成 30 年 8 月 8 日（水）／於：自由民主党本部、衆議院議員会館

要望者：鈴木俊一衆議院議員、達増知事、鈴木厚人県立大学学長、谷村会長、大平企画理事、佐々木理事ほか

要望先：国土強靱化推進本部 二階 俊博本部長〔幹事長〕、地方創生実行統合本部 河村 建夫本部長〔議連会長〕、超党派議員連盟 科学技術の会 細田 博之代表、知的財産戦略調査会 甘利 明会長、科学技術・イノベーション戦略会議 渡海 紀三郎本部長、東日本大震災復興加速化本部 額賀 福志郎本部長、リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟 塩谷 立幹事長

【要望書】

国際リニアコライダー（ＩＬＣ）日本誘致に関する要望

岩手県ＩＬＣ推進協議会は、平成24年4月に設立以来、岩手県との強固な連携のもと、ＩＬＣを東北に建設する意義を『子供たちに夢を』『若者たちに希望を』『地域とすべての人々に未来の期待を築き上げるもの』として誘致にまい進してまいりました。

東北地方は、東日本大震災からの復興の完遂を目指し、懸命に取り組んでおりますが、人口急減・超高齢社会を迎える中で、新しいビジョンのもと将来にわたって持続可能な地域の創造を目指す必要があり、その中心ともなるのが岩手県と宮城県にまたがるＩＬＣであると確信しております。

当地域では、これまでＩＬＣ誘致の要望活動をはじめ、欧州合同原子核研究所（ＣＥＲＮ、スイス）や高エネルギー加速器研究機構（ＫＥＫ、つくば市）等の先進施設の調査・研究のほか、平成28年6月には産学官連携組織である「岩手県加速器関連産業研究会」が発足し、203社にもものぼる多くの企業が加速器産業への参入を目指し、加速器関連機器の共同開発やネットワークの形成を進めてまいりました。

また、一般県民を対象とした講演会などによる理解増進活動はもとより、東日本大震災の被災地における小中高生を対象としたＩＬＣ巡回特別授業や地域住民へのミニ講演会の開催を重ねてまいりましたが、このことによって、子供たちの科学研究や国際交流への関心が高まり、小学生によるＩＬＣカレンダーの製作や絵画コンクールが行われ、その入賞作品がラッピング車両に活用されたり、また、高校生による自主的な署名活動が行われるなど、地域での期待が非常に高まっております。

国際会議「ＬＣＷＳ（リニアコライダーワークショップ）2016 盛岡」開催時には、企業とのセッションや世界の研究者と地元の小中高生との交流、地元農業高校生によるＩＬＣ文字入りのリンゴ等の提供、伝統芸能を披露するなど、地元の熱意を世界に伝え、候補地への理解を深めることができました。

東北においては、経済界、大学、行政で構成される東北ＩＬＣ推進協議会が広域的な活動を展開しておりますが、加えて宮城県・岩手県議会による建設実現議員連盟が発足するなど、両県が一体となった活動が行われております。

平成28年6月には、「東北ＩＬＣ準備室」（室長・鈴木厚人岩手県立大学学長）が新たに設置され、全国の関係者や有識者等との密接な連携のもとに策定された「東北ＩＬＣマスタープラン」は、岩手県・宮城県のみならず、ＩＬＣの建設から運用までを産学官が連携してオールジャパンで進めるとともに、世界に開かれた新たな東北を目指していくこととしております。

さらに、当推進協議会では、国や地方の成長戦略に位置づけられることを目的に「イノベーション・経済波及効果調査委員会」を組織し、全国の各分野の専門家等との連携のもと、基盤技術（加速器関連技術）の発展・利用による産業の波及効果をはじめ、ＩＬＣを契機とした「世界とつながる新たな地方創生」などによる経済波及効果の調査も併せて取りまとめたところであります。そし

て I L C 実現による効果を最大限に活かすよう、今後とも I L C の受け入れ態勢の整備に最大限の努力をしてまいります。

欧州においては、来年 1 月には次期「欧州素粒子物理 5 か年戦略」の検討が本格化します。この戦略に I L C 計画が盛り込まれることが不可欠であり、日本政府が I L C 誘致に前向きな方向性を打ち出すことが求められております。

超党派の国会議員で構成される「リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟」では、7 月に安倍総理に I L C の最近の情勢について報告されたほか、8 月には自由民主党の地方創生実行統合本部などの関係組織を加えた連絡協議会を設置して活動を強化されると伺っており、政府・与党と一体となった活動を推進しておられることに対し、深い敬意を表するものであります。

I L C の実現は、「尊敬される国日本」として国際社会における日本の存在感を高めるとともに、科学技術立国に大いに寄与するものであり、日本の未来を創造する安倍総理のご英断を強く期待しております。

本年 4 月には、「I L C サポートーズ」が発足し、7 月には有識者が中心となって I L C 応援団「100 人委員会（発起人代表：増田寛也氏）」が組織され、8 月にはノーベル物理学賞受賞者 2 名を米国から招聘して国際シンポジウムが開催されるなど国民的な関心が高まっております。

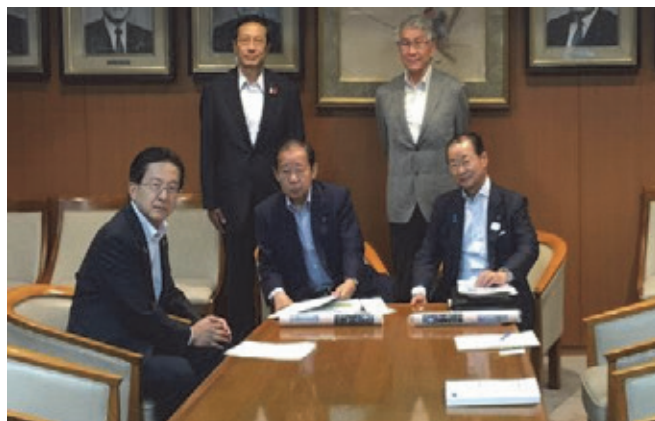
このようなことから、国におかれましては、I L C の早期実現に向けて、次の事項に取り組まれますよう、強く要望いたします。

記

- 1 本年中に日本政府が海外の政府に対して、I L C 日本誘致に向けた前向きな方向性を打ち出すこと。

そして、海外パートナー国との投資と人材の国際分担に対する基本的考え方を日本政府として早期に明示すること。

- 2 I L C 実現に向けた政産官学及び地域社会での様々な取り組みを海外政府に情報発信することを通じて、誘致の条件とされる海外からの大きな資金分担の可能性と研究参加に関する国際調整をすみやかに進めること。
- 3 I L C を学術のみならず、国内の様々な地方をつなぐ産業・情報・技術の新たなネットワークと、世界の知の集積の場「国際科学技術イノベーション拠点」の形成、民間の活力を伸ばす成長戦略そして地方創生等々の観点からの可能性を検討すること。
- 4 I L C の中心技術でもある「超伝導加速器技術」の高度化は、I L C を始めとする基礎科学・医療・エネルギー・安全保障など幅広い利用が進む先端分野であり、本技術の高度化に向け、文部科学省の進める日米共同での枠組みに加え、省庁横断で取り組むこと。



⑦地元選出国會議員・中央省庁への要望

平成 30 年 9 月 19 日（水）／於：グラントアーク半蔵門、復興庁、文部科学省、中小企業庁

要望者：谷村会長、齋藤副会長、県内会頭、専務理事、橋本専務理事ほか

要望先：地元選出国會議員

復興庁（関事務次官）、文部科学省（関研究振興局長）、中小企業庁（安藤長官）

⑧日本学術会議 国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会への意見書提出

平成 30 年 9 月 28 日（金）

提出者：谷村会長

提出先：日本学術会議 国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会

委員長 家 泰弘

【意見書】

国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討委員会におかれましては、国際リニアコライダー（以下、「ILC」）に関わる研究の科学的意義等、精力的に御審議いただいていることに対して深く敬意を表します。

この度、貴委員会および分科会からの論点整理のメモが公開されたのを拝見し、地域と ILC の関わりに関して地元としての計画の捉え方、推進の実情などを改めてお伝えしておいた方が良く強く感じ、ここに簡単ながら書面にてお送りさせていただきたく存じます。

東北地方においては、ILC を核として世界からの人材や技術の集積を目指し、2009 年にその推進母体として東北加速器基礎科学研究会が設立され、東日本大震災後の 2012 年には、東北 ILC 推進協議会へと改組強化されました。同年には、「ILC を核とした東北の将来ビジョン」を策定するなど、要望・提言活動や理解増進活動を行っております（2018 年 9 月末現在 会員数 223）。

岩手県国際リニアコライダー推進協議会は、2012 年 4 月 27 日、岩手県商工会議所連合会と県内の経済 4 団体が先導して、産学官民の協力体制を築き、県内における意識の醸成や受け入れ態勢の充実を図るために設立しました（2018 年 9 月末現在 会員数 621 内訳：法人 545、個人 76）。

これらの協議会は、ILC の実現を目指し、相互に連携しながら、学術的意義をはじめ、ILC の理解を深める普及啓発活動を広く展開してまいりました。

2013 年、国内の研究者コミュニティが ILC の建設候補地として北上山地が最適と評価されてから、私たち地域では、新たな産業振興、地域振興に向け研究や試行を加速させてまいりました。

産業振興については、これまで東北・岩手で培ってきた自動車や半導体等産業の幅広い技術を生かし、新たに加速器関連産業を東北発展の柱とすべく、いわて加速器関連産業研究会が設立され、企業間ネットワークの形成や、研修、技術習得、試作開発、共同研究等を進めています。

この結果、同研究会の会員は地元中小企業を始め 200 社を数え、加速空洞の縦型電解研磨装置やビーム位置モニターなどの開発に取組み、成果が現れています。

また、地域振興については、人口減少や少子高齢化の進捗が著しい地域にあって、人材や技術、頭脳の集積に加え、民間投資が東北に向けられる環境を創り上げ、世界に開かれた地方創生を実現すべく、東北 ILC 推進協議会の東北 ILC 準備室が「ILC マスタープラン～国際リニアコライダー建設を契機とした東北の発展を目指して～」(2018 年 7 月 30 日)を策定するなど、外国人研究者や家族等の受入環境の整備、民間投資による居住環境の整備等の検討が進められています。

こうした動きは、経済的な効果として現れてくるものと考えており、当協議会としても著名な経

済学者の監修もいただきながら、ILCを契機として国際拠点を基盤に地域主体の立案・挑戦から生まれる「世界とつながる新たな地方創生」など、地方創生効果、経済波及効果、人材育成効果、挑戦意欲など心に与える効果など、様々な波及効果を検討してまいりました。

当協議会としては、大型加速器による基盤構築への投資が、民間企業における加速器ビーム利用の拡大など、基盤技術・新たな利用・人材育成に寄与し、民間が挑戦することで、加速器・測定器・情報システムなどの多様な要素技術を利用したビジネス展開をもたらす可能性に加え、ワールド・ワイド・ウェブ（WWW）などで象徴されるような予期せぬ発明や産業への技術移転、ベンチャー企業創出、民間投資を活用したまちづくり、世界に羽ばたく人材の育成など

ILCによる経済波及効果は多岐にわたるものであり、これこそが本来の経済波及効果であると考えております。

文部科学省が設置したILCに関する有識者会議に提出された経済波及効果は、産業連関表による建設・運転などの直接効果や生産誘発額などをベースとしていると承知しております。これらの経済波及効果は、いわゆる消費や製造での効果であり、ILCの科学技術拠点・国際拠点としての特徴がもたらす本来の効果は一切入っていない即効性の部分だけ取り出した一つの目安であり、地域はその金額に過剰な期待をしているものではありません。特に地域における経済波及効果を最大にするためには、地域への投資を呼び込み、地域内循環につなげる仕組みを構築するなど積極的に行動することにより、それ以上になることもある一方で、何もしなければ単なる建設場所に留まると考えております。

私たち地域の産業界は、ILCの受入れ態勢の整備に努め、ILCから多様な効果を引き出し、イノベーションを創出し、東北、日本、そして世界へ貢献していく思いをここに表明させていただきます。

貴委員会の審議におきましては、こうした地域が主体的に行っている活動につきましても十分な御理解をいただき、とりまとめの御参考にしていただければ幸いに存じます。

⑨日本学術会議検討委員会向け ILC 関連補足資料 記者レクチャー

平成 30 年 11 月 20 日（火）／於：FUKURACIA 東京ステーション会議室

登壇者：岩手県立大学学長 鈴木 厚人

東北大学理学部教授 山本 均

東京大学素粒子物理国際研究センター特任教授 山下 了

九州大学理学研究院教授 川越 清以

高エネルギー加速器研究機構教授 道園 真一郎

高エネルギー加速器研究機構教授 藤井 恵介

岩手県 ILC 推進協議会会長 谷村 邦久

※ 提出した意見書の内容について、谷村会長が発表した。

⑩東北 ILC 推進協議会要望

平成 30 年 12 月 21 日（金）／於：自由民主党本部、内閣府、文部科学省

要望者：大野東北大学総長、高橋東北 ILC 推進協議会共同代表、達増岩手県知事、村井宮城県知事、谷村会長ほか 25 名

鈴木俊一衆議院議員、藤原崇衆議院議員同席

要望先：加藤 勝信 自由民主党総務会長

左藤 彰 内閣府副大臣

白須賀貴樹 文部科学大臣政務官

※加藤総務会長面談後、自由民主党 ILC 誘致実現連絡協議会を高橋共同代表と谷村会長が訪問。二階幹事長には面談のうえ、要望書を提出した。

⑪日本商工会議所三村会頭との面談、日商常議員会、議員総会での ILC 計画支援要請

○平成 31 年 1 月 15 日（水）／於：日本商工会議所

面談者：谷村会長、鈴木県立大学学長、山下東大特任教授、橋本専務理事

応対者：日本商工会議所三村会頭、石田専務理事、山下総務部長、五十嵐地域振興部長ほか
・経済 3 団体からの支援依頼のため、三村会頭を訪問。強力な支援を約束いただいた。

○平成 31 年 1 月 17 日（金）／於：日本商工会議所

・日本商工会議所常議員会・議員総会において、谷村盛岡商工会議所会頭から ILC 実現に向けた活動について、全国 515 商工会議所に対して支援要請を行なった。



⑫経済同友会小林代表幹事との面談

平成 31 年 1 月 28 日（月）／於：経済同友会

面談者：鎌田副代表幹事、鈴木県立大学学長、山下東大特任教授、藤澤専務理事・事務局長

応対者：経済同友会小林代表幹事、岡野常務理事、齋藤政策調査部長ほか

・経済 3 団体からの支援依頼のため、小林代表幹事を訪問。ILC は国家プロジェクトとして、日本実現がチャンスであり、支援を約束いただいた。

⑬日本経済団体連合会中西会長との面談

平成 31 年 1 月 31 日（木）／於：日本経済団体連合会

面談者：塩谷議連幹事長、高橋共同代表、鈴木県立大学学長、山下東大特任教授、大江理事

応対者：日本経済団体連合会中西会長、久保田事務総長、吉村産業技術本部長ほか

・従来のプロジェクトとは違い国際機構になるのでインパクトは大きい。財源の問題は難しいが、ステップバイステップで取り組むべきだと支援を約束いただいた。

⑭日本商工会議所第 683 回常議員会における声明の承認

平成 31 年 2 月 21 日（木）／於：日本商工会議所

・「国際リニアコライダー誘致に関する意思表示への期待について」議案提出による追認をいただいた。

⑮経済3団体による共同声明

平成31年2月20日（水）

【声明文】 国際リニアコライダー誘致に関する意思表示への期待

国際リニアコライダー（ILC）は、宇宙の起源や仕組みを研究する素粒子物理学実験用加速器施設であり、世界中の研究者が協力して設計・開発を進めている。

こうした中、日本の素粒子物理学分野発展への貢献や技術レベルの高さから、ILCのホスト国として、この分野の研究を牽引することが、諸外国の多くの研究者から期待されている。ILCは、アジア初の大型国際科学技術拠点として、海外から数千人の優秀な研究者が集まり、国内外の最先端の技術が集積することも想定される。

日本政府には ILC 誘致に向けた「国際協議開始の意思表示 (EoI : Expression of Interest)」を関係国に発出し、国際協議の開始を関係諸国に呼びかけることを期待する。その上で、今後の誘致の最終判断に向け、誘致計画の精緻化、発現が期待される諸効果のさらなる検証、学术界をはじめとする関係者の理解の醸成に努めていただきたい。

一般社団法人 日本経済団体連合会

日本商工会議所

公益社団法人 経済同友会

⑯ILC 推進産学連携フォーラムにおける谷村会長によるステートメント

平成31年1月18日（金）／於：東京 国際文化会館

主催：AAA、ILC推進プロジェクト

○プロジェクト推進表明

政治を代表して : リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟
幹事長 塩谷立 衆議院議員

研究者組織を代表して : 高エネルギー加速器研究機構 機構長 山内正則

地方を代表して : 岩手県商工会議所連合会 会長 谷村邦久

・震災復興とILC、ILCと地方創生、受入態勢整備に向けた取組み、東北要望等について地方を代表して谷村会長が発表した。

○講演

「ドラゴン桜 作者三田紀房の ILC への強き思い」

漫画「ドラゴン桜」作者 三田 紀房 氏

「ILC が拓く未来」

国際リニアコライダー・コラボレーション 副代表 村山 斉 氏



塩谷幹事長



谷村会長



村山氏



⑰リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟、ILC 誘致実現連絡協議会への支援要請

平成 31 年 1 月 24 日（木）／於：衆議院第一・第二議員会館、参議院議員会館

・ ILC をテーマとした「会長 島耕作」の連載が始まり、国民の理解促進につながることを。

日本商工会議所議員総会で谷村会長が全国に支援を呼び掛けたこと、1 月 18 日開催の産学連携フォーラムチラシを持参・配布し、政府の意思表明に向けた活動・支援をお願いした。

訪問者 事務局

⑱リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟、ILC 誘致実現連絡協議会総会

平成 31 年 2 月 21 日（木）／於：衆議院第一議員会館 国際会議室

ILC 計画の進捗状況についての現状報告

研究者：駒宮先生 経済界：鈴木学長（AAA 副会長）有識者：増田先生（100 人委員会代表）

・ 候補地代表として谷村会長から地域の活動について発表。

・ 当日は、一関市の金野遼太君から署名簿を河村先生に伝達された。

⑲東北 ILC 推進協議会「ILC 日本誘致の意思表明に関する緊急要望」

平成 31 年 2 月 27 日（水）／於：文部科学省

要望者：高橋東北 ILC 推進協議会共同代表、千葉副知事、谷村会長、勝部一関市長、

小沢奥州市長、菅原気仙沼市長ほか 37 名、藤原崇衆議院議員同席

要望先：白須賀 貴樹 文部科学大臣政務官

⑳文部科学省の関心表明と国際研究者組織（ICFA）のブリーヒングを受けての共同記者会見

平成 31 年 3 月 7 日（木）／於：ホテルメトロポリタン盛岡

会見者：達増知事、鈴木県立大学学長、谷村会長

【谷村会長コメント】

政府が ILC 計画に関心を持つとの見解を示したことに敬意を表する。

I L C 計画がもたらす技術的研究の推進や立地地域への効果の可能性について明記されたことは、誘致実現への確かな一歩と考える。

国際研究者組織として、国際協力の継続が表明されたことを歓迎し、今後、新たな段階に進み国際的な議論がさらに進展することを期待する。

経済界そして地元の人間として、未来の日本を担う若者・子供たちに夢と希望を与える ILC の誘致実現を目指し、引き続き国民の理解を深めるための活動を強化し、受入態勢の整備に全力を尽くしたい。



鈴木学長

達増知事

谷村会長

②1政産官学連携要望

平成 31 年 3 月 19 日（火）／於：衆議院議員会館、衆議院議長公邸

要望者：鈴木俊一衆議院議員、達増知事、鈴木厚人県立大学学長、谷村会長 ほか

要望先：リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟 会長 河村 建夫

同

幹事長 塩谷 立

衆議院議長 大島 理森

②2柴山文部科学大臣への一関市学生による「ILC 実現を願う署名」の手交

平成 31 年 3 月 28 日（木）／於：文部科学大臣室

発起人代表：浅利 寛喜さん、金野 遼大さん

超党派議連：河村会長、鈴木副会長、塩谷幹事長、藤原崇衆議院議員（地元）

要 望 先：文部科学省：柴山文部科学大臣、磯貝研究振興局長ほか

高橋東北 ILC 推進協議会共同代表、一関市長ほか帯同。

(4) 組織強化活動

ア. 会員増強

ILC 実現にむけた活動を強化するため関係機関と連携し、主に岩手県内を中心に会員増強活動を実施した。結果、法人・団体会員 18 会員の増（新規加入 28、退会 10）、個人会員数 2 会員の減（新規加入 3、退会 5）、全体で 16 会員の増となった。

会員状況については別掲。

イ. 産・学・官・関係機関との連携

■東北 ILC 推進協議会との連携

①第 1 回幹事会

平成 30 年 4 月 18 日（水）／於：セントレ東北…猿川事務局長
議事（1）平成 30 年度総会等の議事について（案）

②総 会

平成 30 年 5 月 10 日（木）／於：ウェスティンホテル仙台
…谷村会長、齋藤副会長、橋本専務理事、廣田理事、猿川事務局長
議事 H29 事業報告・決算、H30 事業計画・予算等について

■東北 ILC 準備室との連携

政府の ILC 誘致決定に備え、東北地域の産学官民が密接に連携した「東北 ILC 準備室」を東北 ILC 推進協議会の中に設置（H28.6.14）し、ILC に係る「地域広域基本計画」の策定をはじめ、地域の受入体制の準備を中核として、地域と日本の成長に資する方策に取り組む。

また、検討体制、専門的課題の検討を行うため、広報、地域受入体制、産業化、技術の四分野を中心に部会と地下施設、マスタープランの 2 専門部会を設置。

東北 ILC 準備室 構成員

室 長 鈴木 厚人（岩手県立大学学長）
副室長 大平 尚（岩手県企画理事）宇部 文雄（東北 ILC 推進協議会代表補佐）
室 員 岩手県立大学、東北大学、岩手大学、岩手県、宮城県、仙台市、
東北経済連合会、岩手県 ILC 推進協議会
フェロー 山下 了（東京大学特任教授）、山本 均（東北大学教授）
事務局長 大江 修（東北経済連合会理事）

①東北 ILC 準備室全体会議等

各部会の進捗状況等や情報共有のため定期的に全体会議、コアメンバーによる戦略会議を開催。当協議会から猿川事務局長が出席。

■先端加速器科学技術推進協議会（AAA）との連携

①総 会

平成 30 年 6 月 29 日（金）／於：東京・国際文化会館
議事 H29 事業報告・決算、H30 事業計画・予算等について

② ILC 推進連絡会議

AAA、KEK、岩手県、東北 ILC 準備室、岩手県 ILC 推進協議会で構成され、情報の共有と ILC 国際シンポジウムの開催などの東京イベントや学術会議への対応、政府の関心表明に向けた協議、運営等に参画した。

■いわてサイエンスシンポジウム 2018 実行委員会との連携

① ワーキンググループ会議

平成 30 年 5 月 10 日（木）／於：エスポワールいわて…事務局

議事 規約改正、役員選任、事業計画・収支予算（案）、出展内容等について

② 第 1 回実行委員会

平成 30 年 5 月 17 日（木）／於：岩手県公会堂…事務局

概要 規約改正、役員選任、事業計画・収支予算（案）等について

③ 第 2 回実行委員会

平成 30 年 6 月 22 日（金）／於：岩手県庁…事務局

概要 シンポジウムの企画内容、周知方法、スケジュール等について

■岩手県政策地域部科学 ILC 推進室との連携

毎月 1 回、相互の活動状況の報告や今後の活動計画等について意見交換を実施。

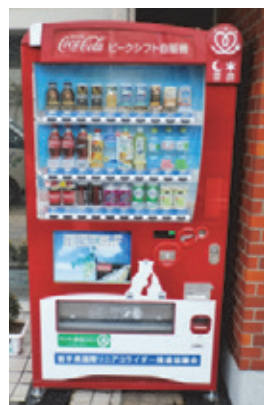
（５）広報活動

① 「ILC 誘致実現支援自動販売機」の継続設置

みちのくコカ・コーラボトリング(株)様のご協力を得て、売上の一部が ILC の誘致実現の活動（当協議会の活動等）に寄付される自動販売機を県内 3 か所に継続して設置。



盛岡市（マリオス 3F）



奥州市

② PR 用うちわの作成・配布

うちわ 1,000 本を作成し、「盛岡さんさ踊り」や ILC イベント等にて配布した。

③PR 年賀状の作成

岩手県印刷工業組合・盛岡広域振興局・盛岡中央郵便局と協力し、
28,000 枚を印刷・販売。



④周知用ポスター、地形ジオラマの展示・貸出

これまでに作成した広報用ツールを活用し、
各種イベント等に出展等を実施。

講演会等（VACUUM2018 真空展等）

*現在は岩手 ILC 連携室「オープンラボ」内に展示



⑤イメージキャラクター「ILC そばっち」の活用

ILC への親しみやすさや岩手県が候補地であることのイメージの醸成のため、平成 27 年度に作成。当協議会員等関係機関にて広報物（名刺）等への利用がなされた。



（6）諸会議等

■役員会

①第 1 回役員会（※終了後、山下先生による講演会を開催）

平成 30 年 6 月 13 日（水）13:15～13:40／於：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング

議事（1）平成 29 年度事業報告並びに収支決算について

（2）平成 30 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について

（3）役員の改選について

（4）平成 30 年度要望（案）について

講話 「ILC プロジェクト 最新の状況について」

東京大学 特任教授 山下 了 氏

■幹事会

①第1回幹事会

平成30年6月4日（月）11:00～／於：盛岡商工会議所
議事（1）役員会提出議題について

②第2回幹事会

平成30年11月19日（月）13:30～／於：盛岡商工会議所
議事（1）上半期事業進捗状況報告等

■監査会

平成30年6月4日（月）10:30～／於：盛岡商工会議所
・平成29年度会計監査

（7）会員加入状況（平成31年3月31日現在）

合計619会員（法人・団体会員 543会員、個人会員 76会員）

*16会員増：年度当初 603会員（法人等525、個人78）

平成30年度 岩手県国際リニアコライダー推進協議会 収支決算書

自)平成30年 4月 1日

至)平成31年 3月31日

■収入の部

(単位:円)

項 目	決算額	予算額	対比増減(△)	備 考
1. 会費	12,110,000	11,900,000	210,000	
(1)法人会費	11,720,000	11,500,000	220,000	予算:520会員/575口 → 決算:543会員/586口
(2)個人会費	390,000	400,000	△ 10,000	予算:80会員/80口 → 決算:76会員/78口
2. 負担金	6,100,000	500,000	5,600,000	
(1)負担金	500,000	500,000	0	@100,000×経済5団体
(2)ILC推進事業負担金	5,600,000	0	5,600,000	岩手県、盛岡市、一関市、奥州市
3. 雑収入	1,644,641	443,236	1,201,405	懇親会費50万、サイエンス×キティグッズ代15万 寄附金(みちのくコカ・コーラ共生会)18万、 ILCうちわ代66万、決算利息 ほか
4. 繰越金	4,556,764	4,556,764	0	
合 計	24,411,405	17,400,000	7,011,405	

■支出の部

(単位:円)

項 目	決算額	予算額	対比増減(△)	備 考
1. 事業費	16,673,340	14,700,000	1,973,340	ILC推進事業費 621万円 (3.27講演会、横断幕等広報物作成費) AAA関連イベント 350万 調査・事業関係旅費等 250万 東北ILC準備室負担金 100万 外国要人受入支援費 15万円 イノベーション・経済波及効果調査関係費 70万 シンポジウム等開催費 35万 マインツ大齋藤先生巡回授業 20万 HP運営管理費 24万 / 関係団体会費 12万 報告書等印刷費 27万 ILCうちわ・年賀はがき等 100万 サイエンスシンポジウム等イベント関連 17万 サイエンス×キティグッズ代 9万 …ほか
2. 会議費	109,545	250,000	△ 140,455	役員会・幹事会開催費
3. 事務費	1,708,393	2,000,000	△ 291,607	
(1)旅費	58,180	350,000	△ 291,820	関係団体総会等旅費
(2)印刷費	171,924	150,000	21,924	資料コピー代、封筒代ほか
(3)通信運搬費	278,289	300,000	△ 21,711	広報物・事業報告書等配送料
(4)事務委託料	1,200,000	1,200,000	0	事務委託料
4. 雑費	51,539	150,000	△ 98,461	振込手数料、消耗品ほか
5. 予備費	0	300,000	△ 300,000	
合 計	18,542,817	17,400,000	1,142,817	

次年度繰越

5,868,588

貸借対照表

平成31年3月31日

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	9,302,520	流動負債	3,433,932
現金	0	未払金	3,433,932
預金	8,602,520		
未収金	700,000		
固定資産	0	未処分剰余金	5,868,588
		当期剰余金	5,868,588
合 計	9,302,520	合 計	9,302,520

財 産 目 録

平成31年3月31日

■資産の部

(単位:円)

1. 現金	0
2. 普通預金	8,602,520 (岩手銀行)
3. 未収金	700,000

資産合計 9,302,520

■負債の部

(単位:円)

1. 未払金	3,433,932
--------	-----------

負債合計 3,433,932

差引正味財産 5,868,588

平成30年度会計監査報告書

岩手県国際リニアコライダー推進協議会の平成30年度収支決算について監査をいたしましたところ、収入、支出ともに諸帳簿及び関係書類等と適合し、適正かつ正確に処理されていることを確認いたしましたので、ここに報告いたします。

令和元年5月30日

岩手県国際リニアコライダー推進協議会

監事 熊谷 敏 裕



監事 菅原 和 弘



岩手県国際リニアコライダー推進協議会 令和元年度事業計画（案）

平成 31 年 3 月 7 日、文部科学省より国際研究者組織（ICFA）に対して「現時点で日本誘致を表明するには至らないとしたものの、ILC 計画に関心を持って国際的な意見交換を継続する。」との関心表明があり、ICFA は「文部科学省及び関係省庁における ILC への継続的な関心の表明を ILC への実現の道筋に沿った重要なマイルストーンとみなしている。」と発表した。

文部科学省は、米国と設置しているディスカッショングループを欧州（仏、独）と設置するべく交渉を進め、高エネルギー加速器研究機構（以下 KEK と略）は、国際ワーキンググループを 5 月に設置し、9 月までに国際分担等のとりまとめを行うこととしており、国内では日本学術会議のマスタープランの議論が開始するなど、ILC 誘致決定に向けた重要な局面を迎えている。

こうした国内外の活動状況を踏まえて、当推進協議会においても岩手県、KEK や先端加速器科学技術推進協議会（以下 AAA と略）等の関係団体、関係自治体と一体となり、組織的な活動を進める。

特に、国民全体の盛り上がりは不可欠であり、オールジャパン体制の推進によるメディア等の活用による広報活動や全国イベントやシンポジウムなど、ILC 実現を岩手県から東北、日本全国に広げる活動を切れ目なく積極的に展開する。

ILC を国際プロジェクトとして進めるには、「欧州素粒子物理戦略」に盛り込まれることが不可欠であることから、本年が ILC 誘致の正念場であり、政府が早期の誘致判断をくだすよう岩手県、ILC 関係団体とともに万全を期して取り組む。

（１）国等への要望活動の強化

■岩手県、東北 ILC 推進協議会等と連携した要望活動（6 月 12 日、秋頃）

■岩手県国際リニアコライダー推進協議会としての要望活動（9 月中旬）

■政産官学連携による要望活動と情報共有

■リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟、自由民主党 ILC 誘致実現連絡協議会との連携

■経済 3 団体（日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会）との連携

（２）国内・外への ILC 実現にむけた活動

■国内 PR の強化

岩手県、KEK、AAA、東北 ILC 推進協議会（東北 ILC 準備室）、研究者等で構成される ILC 推進連絡会議に参画して、より一層全国への ILC の浸透に努める。

関係団体が一体となり、専門家も交え、新聞等メディア等への働きかけや ILC ポータルサイト（ILC プロジェクト）、SNS による全国への情報発信、全国イベント・シンポジウムの開催など ILC 関連イベントの企画・実施を積極的に推進する。

■東北 ILC 準備室の活動

研究者組織で進める北上サイトに特化した設計への協力など各種調査の支援に取り組む。

■海外での活動

リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟、KEK、AAA 等との連携による国際交渉を支援し、地元の熱意や受け入れ態勢整備状況について発信する。

■海外への情報発信強化

海外要人や研究者の視察受入の機会を有効に活用し、海外への情報発信に努める。

当推進協議会 HP 内「THE KITAKAMI TIMES」等を活用して ILC 実現に取り組む協議会事業や北上サイトの魅力など世界にむけて積極的な情報発信を行う。

LCWS2019 仙台（10 月 28 日～11 月 1 日）における企業展示、セッションの開催支援。

■普及啓発活動

講演会の開催による県民に対する幅広い啓発活動や小・中学生を対象としたセミナーを開催する。

岩手県が主催するサイエンスシンポジウム〔8 月 4 日宮古市、8 月 10 日盛岡市〕に関係団体と連携して出展を行う。

■岩手県 ILC 連携室オープンラボ活用支援

ILC の情報発信拠点、ILC を契機とした産業、人材育成、研究開発の拠点として、平成 30 年 4 月に岩手県先端科学技術研究センター内に開設。関連産業の参入を目指す事業者や学生などを対象に啓発活動を行っており、積極的な活用の支援を行う。

（3）調査・研究活動

■岩手県、東北 ILC 準備室、いわて加速器関連産業研究会と連携して、ILC への加速器産業等参入機会の創出やネットワーク構築の支援

■大型加速器研究施設 CERN 等 ILC 関連施設視察

（4）広報活動

■PR 用うちわ、年賀状等の作成・配布、「ILC そばっち」の活用

（5）組織強化活動

■ILC 実現にむけた活動を強化するため、当推進協議会の会員増強に努める。

■産・学・官・関係機関との連携

（6）諸会議等

■役員会・幹事会の開催

令和元年度 岩手県国際リニアコライダー推進協議会 収支予算(案)

自)平成31年 4月 1日

至)令和 2年 3月31日

■収入の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	対比増減(△)	備 考
1. 会費	12,110,000	11,900,000	210,000	
(1)法人会費	11,720,000	11,500,000	220,000	519会員／586口
(2)個人会費	390,000	400,000	△ 10,000	70会員／78口
2. 負担金	500,000	500,000	0	@100,000×経済5団体
3. 雑収入	401,412	443,236	△ 41,824	懇親会費等
4. 繰越金	5,868,588	4,556,764	1,311,824	
合 計	18,880,000	17,400,000	1,480,000	

■支出の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	対比増減(△)	備 考
1. 事業費	16,180,000	14,700,000	1,480,000	講演会等開催費:100万 齋藤先生特別授業:50万 AAA等ILC関係団体共同プロジェクト推進負担金: 400万 AAA等ILC関係団体調査事業旅費等:120万 東北ILC準備室負担金:100万 要望関係旅費等:90万 CERN等視察費:200万 LCWS2019仙台等関連学会支援費:130万 県内イベント関連費:30万 海外要人受入支援費:20万 うちわ作成等継続事業費:100万 HP管理費(日本語・英語):36万 事業報告書等印刷代:40万 関係団体諸会費:32万 岩手イベント等事業予備費:170万
2. 会議費	250,000	250,000	0	役員会・幹事会開催費
3. 事務費	2,000,000	2,000,000	0	
(1)旅費	350,000	350,000	0	関係団体総会等旅費
(2)印刷費	150,000	150,000	0	資料コピー代ほか
(3)通信運搬費	300,000	300,000	0	広報物・事業報告書等配送料
(4)事務委託料	1,200,000	1,200,000	0	事務委託料
4. 雑費	150,000	150,000	0	振込手数料、消耗品ほか
5. 予備費	300,000	300,000	0	
合 計	18,880,000	17,400,000	1,480,000	